

令和 4 年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業について（案）

提 案

県内における災害時等輸血用血液製剤供給体制の構築

▽R3 年度の研究事業（模擬訓練、指針（R2 事業で策定）の検証及び改定）の成果を踏まえ、総括や指針改定の際に言及された次の課題のうち、①に係るテーマで申請する。

①交通遮断時における血液製剤の輸送

②止血困難例を想定した FFP やフィブリノゲン製剤等の近隣医療機関間での融通

③県境医療機関間での製剤等の融通

▼背景

- R3 年度の研究事業では、県北部の医療機関の協力のもと、災害時（血液センターからの輸送経路の遮断）を想定した医療機関間の血液製剤の譲渡に係る模擬訓練を行い、得られた成果を踏まえて指針を改定したが、参加者アンケートや幹事会、研修会において、実効性を高めるための課題があげられ、次の対応策が考えられた。

課題	対応策
<p>◎ 災害時に融通希望の多い「赤血球製剤」を在庫している医療機関は少ないのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● H30 年の西日本豪雨災害の際、県が自衛隊に要請し医療資材を運搬した事例が参考になる。 ● <u>血液センターからの血液製剤の輸送手段として、ヘリ等を活用できる体制を構築する。</u> ● また、災害時には、逐次、需要が発生するとともに、不足が生じないように、多め（余分）の発注も想定されるため、<u>ヘリ等を用いて、地域全体の必要量を、拠点となる医療機関へ運搬し、当該拠点医療機関と融通を希望する医療機関の間で随時、譲渡を行うことにより、血液製剤を無駄なく（適正）使用かつ効率的に需給調整することが可能となる。</u>
<p>◎ 普段からコミュニケーションがとれている医療機関同士でなければ実効性に乏しいのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 上記のとおり、あらかじめ、<u>譲り渡す拠点を固定することにより、平時におけるコミュニケーションの強化や訓練の徹底が容易となる。</u>

指針の実効性の向上及び血液製剤の使用適正化

▼研究骨子

- ヘリ輸送を選択する際の条件
- 連絡体制の構築と連絡方法の整備（血液センター，県庁，県防災センター）
- 輸送方法（血液センター → 離陸ポイント（ヘリ） → 着陸ポイント）
- 拠点病院の選定
- 血液製剤の発注（地域全体の需要量の集約）方法